

競技上の注意

関東中学校体育連盟卓球部

本大会は令和7年6月1日に改定・実施の日本卓球ルール、プログラムに掲載された大会要項・競技上の注意、開催地・埼玉県実行委員会からの諸連絡事項に基づいて行います。

1、マッチと大会使用球について

1 1ポイント(点)制の5ゲームマッチ(試合)で行い、サービスは2ポイント交代とします。大会使用球は40mm(公財)日本卓球協会公認のホワイトボール(プラスチックボール)とします。

2、競技方法について

団体戦は、3チームずつを1グループとした11に分けた第1ステージ(リーグ戦方式)と各グループの1位のチームによる第2ステージ(トーナメント戦方式)、全国大会出場代表決定戦(トーナメント戦方式)を行います。予選リーグ2位のチームはすべて代表決定戦に回ります。第1ステージは3点先取法で行い、勝敗が決した後の4, 5番は3ゲームマッチとします。第2ステージと全国大会出場代表決定戦は原則3点先取法で行い、その時点で試合終了とします。個人戦(シングルス)はトーナメント戦方式で行います。ベンチについては原則として若い番号のチーム・選手が本部席側になるようにしてください。ただし、運営上必要な場合はベンチの位置を変更する場合がありますのでご了承ください。

3、審判について

団体戦は両チームからの相互審判を基本に、個人戦は敗者審判を基本に試合を行います。監督、アドバイザー、選手、審判はルールやマナーを守り、互いに尊重し合い、試合を進めるようにしてください。判断に迷った時は試合を止め、コート主任に申し出てください。

4、競技服装について

競技服装は半袖シャツ、ショーツまたはスカートとします。在籍しているチーム名入りのゼッケンを背中の中真ん中に着用してください。団体戦・個人戦ともに少なくとも2種類のユニフォームが必要です。競技服装の主たる色は使用するボールの色と明らかに違う色でなければならないので、白色を基調とするものは着用できません。また、団体戦はチーム全員に同じユニフォームが少なくとも2種類必要です。卓球の公認用具指定業者を除いて、在籍しているチーム名以外の文字等がある競技服装は着用できません。

5、ラケット・ラバーについて

ルールに適合したラケット・ラバーで試合に臨むことは選手自身の責任です。ラバーはラケット本体より大きかったり、小さかったり、そして厚かったり、平坦性に欠けていたりしてはいけません。また、日本卓球協会が公認していない外国製のラケット本体を大会で使用する場合は審判長に事前に使用許可を受けてください。

6、ラバーの貼り替えについて

ラバーを貼り替える必要が生じたときは日本卓球協会が公認した接着剤で行ってください。その場合、競技の進行に支障をきたさないよう十分に注意してください。

7、プレーの継続性について

マッチ中、プレーは継続されなければなりません。プレーとプレーの間は時間をとらないように気をつけてください。間合いをとりすぎるとバッドマナーとして扱います。汗を拭くためのタオルの使

用は6ポイントごとのチェンジサービスのときに行い、サービスが1ポイントごとになったときも6ポイントごとに行います。また、ファイナルゲームのチェンジエンドのときも許可されます。

8、アドバイスについて

選手がアドバイスを受けることができるのはゲーム間の1分以内の休憩時間やタイムアウトの要求が認められたとき、そして認められた緊急中断のときだけとします。このとき、選手はプレー領域の3m以内にとどまらなければなりません。マッチ開始直前の2分間の練習の後はアドバイスを受けることはできません。また、この規定時間以外にマッチ中、ベンチや観客席からの声やジェスチャー・サイン等で指示・アドバイスを受けてはいけません。監督やアドバイザーは中学生の指導者としてルールやマナーを守り、品位と節度ある言動で臨まれることを強く希望します。

9、抗議権について

抗議権は団体の場合は監督に、個人戦の場合は選手本人にしかありません。団体戦・個人戦のアドバイザーには抗議権はありません。

10、オーダー提出とタイムテーブルについて

団体戦のオーダー提出は遅れないようにしてください。また、いったん提出したオーダーは変更できません。オーダー交換は競技コートで行います。タイムテーブルの時刻は競技開始の時刻とし、オーダーはその10分前を目安に提出してください。競技の進行の状況により、タイムテーブルが変更になる場合があります。団体戦の第1ステージでは、競技開始時刻から1時間が経過した時点で予備コートを使用し、2台進行とします。

11、タイムアウトについて

1マッチに1回、1分以内でタイムアウトを要求することができます。タイムアウトは監督および選手が要求することができます。団体戦でベンチ入りしているアドバイザーは、複数コートを同時に使用して行う場合の担当コートのみタイムアウトを要求することができます。

12、促進ルールについて

促進ルールは両方の選手または組からの要請があった場合やゲーム開始後10分経過しても終了しない場合に適用されます。ただし、両方の選手または組のポイントスコアの合計が少なくとも18ポイントに達した場合には促進ルールは適用されません。

13、マッチ前後の動きについて

マッチ開始直前に2分間を限度としてそのマッチで使用するテーブルで練習できますが、正規の休憩時間には練習できません。また、団体戦で終了の挨拶が済んだ後、相手チームの監督やアドバイザーに対して特別に挨拶に行く必要はありません。

14、サービスについて

正規のサービスでマッチに望むことは選手自身の責任です。特に、「サービスの開始からボールが打球されるまで」は「手を開き、手のひらにボールを静止させる」「エンドラインより後方でプレイングサーフェイスより高い位置に」「ボールを隠さない」「フリーハンド・フリーアームをボールとネットとの空間の外に出す」「16cm以上ほぼ垂直にボールを投げ上げる」「下降時を打球する」等が肝要となります。

15、入賞について

団体戦・個人戦ともにベスト4以上を入賞とし、閉会式で賞状とメダル等の副賞品を授与します。また、全国大会の代表になったチーム・選手には推薦状の授与があります。